

チャレンジ！！オープンガバナンス 2018 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No.	タイトル	自治体名
		産業力強化・イノベーション創出のまち	山口県 宇部市
アイデア名 (注2) (公開)	宇部！ICTで夢いっぱい腹いっぱい計画		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2018 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報

チーム名 (公開)	O村U野		
チーム属性 (公開)	<input type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input checked="" type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム		
メンバー数 (公開)	2名		
代表者情報	氏名 (公開)	上野 翔	
メンバー情報		岡村 和哉	

(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2018_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2018 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2018@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、課題解決のために、何をやる社会的なサービス（活動）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなワクワク感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題>

○地域経済の活性化に繋がる新事業・新産業の創出や、人材確保、経営革新、事業承継など、企業が直面する課題に対応するためには、これまで取り組んできた産業振興策に加えて、IoT や ICT、AI、衛星データ、ビッグデータなどを積極的に活用していく必要があります。

<解決アイデアの内容>

これらの課題解決として、宇部市を商業的な面から盛り上げていくことが、課題解決の糸口となると考え、飲食店の活性化と宇部市内で採取、捕獲された一次産品を使用した加工品「うべ元気ブランド」の推進をアプリを用いて行うというアイデアを考えた。

このアプリは、飲食店や宇部元気ブランド等を販売している店舗を掲載し、ユーザーに情報をより分かりやすく提供するものである。しかし、これだけでは「食べログ」を使用するのと何ら変わらないので、現状の課題を打破するには遠く及ばないと考える人もいるだろう。だが、このアプリには、「食べログ」とは大きく差別化できる点が2つある。

一つ目は、宇部市では「食べログ」を活用できている店舗が少なく、その恩恵を享受できていないことが多い点である。「食べログ」では、掲載される情報をより多く、優先度を高くするために、料金を支払わなければならない。これでは、ネットに疎い高齢者が経営する店舗や、まだ資金が潤沢でない店舗は不利となってしまう。このままでは、新規店舗も増加せず、地域経済の活性化も期待できない。しかしながら、このアプリでは、アプリ開発側が店舗のほうからデータを集めるため、前述したような店舗も不利なく情報を伝達できる。

二つ目は、このアプリに4つの「食べログ」にはない機能を搭載していることだ。

1: GPS マップ機能

アプリに掲載されている店舗すべての位置情報が、google map を活用し、調べることが可能となる。現在位置も GPS 機能を通して、調べられるため自分の周辺にある飲食店に気軽に赴くことが可能となっている。その際、気になる店があれば、そのマップから直接店舗情報に移ることが可能となっている。この map 機能を活用すれば、近場にあるのに気づかなかったような穴場のお店にも行くことができる。

2: YouTube を活用した CM

このアプリの大きな特徴である CM 機能というものは、私たち慶進高校情報処理部が、直接お店のほうへ取材に向かい、そこで得た映像や画像などを編集して、YouTube に限定公開という状態で投稿する。アプリ内から直接リンクされており、このアプリを活用することで、静止画だけではつかみにくいそのお店の雰囲気や、お店の内装等まで、詳しく知ることが可能となっている。また、前述したように、慶進

高校情報処理部、つまり高校生という若い世代がこの活動にかかわることで、より、地域と密着し、交流を深めることができるという点においても地域活性化に貢献できる。このような機能は、地元の店舗と密着できる地方ならではの取り組みであり、長期計画とはなるが、市内全店舗にて実践することができれば、それだけでも宇部市の経済に大きく影響するだろう。

3: お店の概要等

お店に電話番号や公式サイト、写真に評価という店舗情報を掲載している。レビュー機能をつけることで、客層などの情報も得ることができ、お店のリアルな感想も得ることができる。宇部市内の店舗では、レビューサイトにおいて、住民からのレビューが載っていないことも多い。この要因としては、地方住民は、全国的なレビューサイトを同じ地域の人々が活用しているという確信を得ることが難しく、大手レビューサイトに、レビューを載せたとしても、誰も見ることがないと思込んでしまいがちだからだ。さらに、このような地方の飲食店の情報などは、レビューサイト運営のほうから、大きく取り上げることも少ないため、埋もれてしまう。そこで私たちは、宇部市という地域に限定し、定期的に店舗を取り上げることで、そのようなことを防ぐことができると考えた。

4: うべ元気ブランドの紹介

宇部市には、「うべ元気ブランド」という、宇部市独自のブランドが存在している。宇部市が市内で採取、捕獲された一次産品を使用した加工品から厳選した製品を認証したもので、この「うべ元気ブランド」のデータを宇部市はオープンデータとして、宇部市のホームページを通して公開している。このデータを用い、飲食店のみならず、「うべ元気ブランド」を販売している店舗も飲食店と同様に GPS マップや、店舗紹介ページ等で紹介している。もちろんオープンデータにも入っている紹介文を利用して、うべ元気ブランド専用のページも用意している。

このような「食」に特化したアプリを制作することが地域経済の活性化に繋がる新事業・新産業の創出や、人材確保、経営革新、事業承継など、企業が直面する課題に対応するためには、これまで取り組んできた産業振興策に加えて、IoT や ICT、AI、衛星データ、ビッグデータなどを積極的に活用していく必要があるという課題を解決する糸口になるのではないかと考えた。

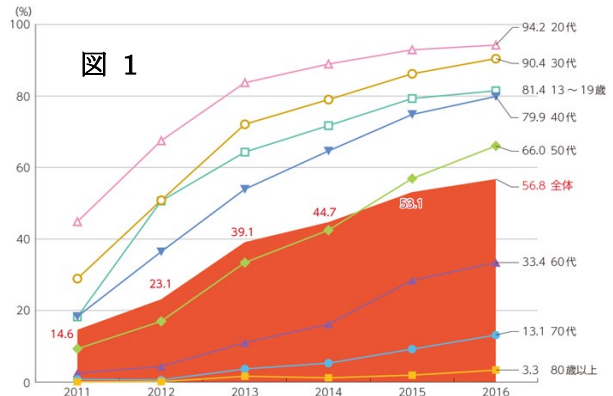
(2) アイデアの理由 (公開)

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの資料や関連の計画、既存の施策などの定性データのことを総称します。データは出所を明らかにしてください。

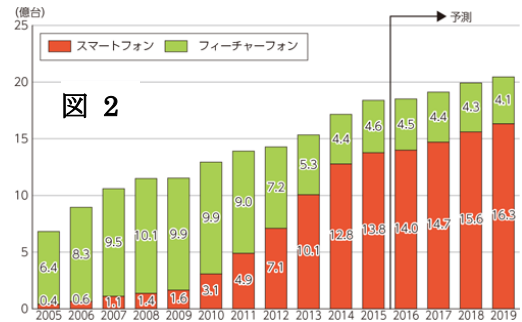
なぜこの課題を解決するためにこのようなアプリが必要なのか。

それは課題にもあるように近年の日本社会において IoT や ICT、AI、衛星データ、ビッグデータなどを積極的に活用していく必要があるからである。

総務省の調べによるとスマートフォンの個人保有率の推移は、2011 年より徐々に増加しており、2016 年では全体が 56.8%と 2011 年に比べ 4 倍も上昇している。高齢者である、60 代も 33.4%と 5 年間だけでも急速な普及が進んでいるのである。(図 1 参照)
この急速な普及が進んでいるのは日本だけではない。

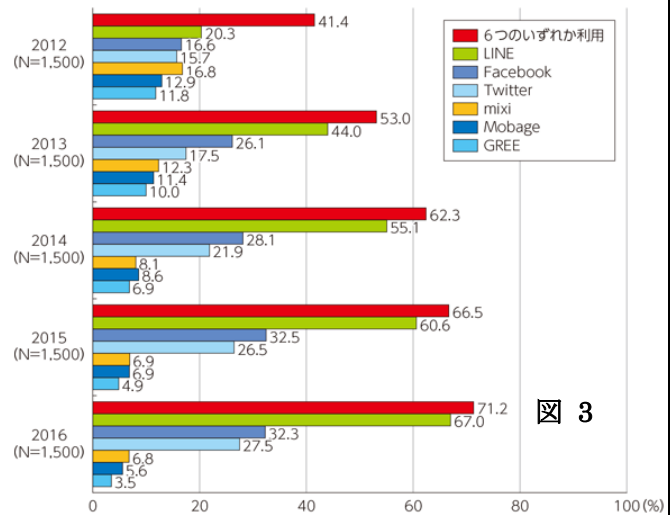


総務省調べの世界のスマートフォン及びフィーチャーフォンの出荷台数推移のグラフでは 2011 年から 2016 年では約 3 倍に跳ね上がっている、それに伴いフィーチャーフォンの出荷台数は急速に衰えている。(図 2 参照)



この結果から分かるように、今はインターネットと携帯電話の時代ではなくスマートフォンとアプリの時代なのである。アプリの中でも特に人気があるのが SNS である。

総務省の代表的 SNS の利用率の推移(全体)では、2012 年は 41.4%と半数にも満たなかったが、2016 年には 71.2%と国民のほとんどがなんらかの SNS アプリを保有しているという結果が出ている。(図 3 参照)



また、産経ニュースによれば、2017 年 4~6 月の実質 GDP(国内総生産)の速報値から 6 四半期連続のプラス成長で、内閣府は GDP の約 6 割を占める個人消費が好調だったからだとしている。さらにこの個人消費の好調に貢献したのはインスタグラムをはじめとする SNS によって伸びた外食であるとも報道されている。

さらに、飲食店への調査として「一番効果を得られたと感じる施策は」というアンケートから、「食ベログ」が 14.6%と最も効果があるのはグルメサイトや SNS であることも分かっている。

このように SNS では近年インスタ映えなどの社会効果を生み出し経済にも大きな影響を与えつつある。私たちはこの流れに乗じて、「食ベログ」と「SNS」、「Google map」を融合させた、新しい宇部市独自

のアプリを製作することが、さらに最大限の経済効果を発揮させ、宇部市の商業を盛り上げるのではないかと考えた。

引用元

SNS 普及率(総務省)

<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h29/html/nc111130.html>

スマホ保有率(総務省)

<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h29/html/nc111110.html>

産経ニュース

<https://www.sankei.com/premium/news/170920/prm1709200001-n1.html>

飲食店集客(飲食店.com)

<https://www.inshokuten.com/research/magazine/article/4>

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2 ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

私たち情報処理部は、昨年度「宇部グルメ」というアプリを製作した。

これは、昨年度宇部市のほうで開催された「第三回オープンデータアプリコンテスト宇部」というコンテストに応募した作品で、今回のアイデアの原型になっている。このアプリでは、地図、一部店舗の CM、一部店舗の情報、うべ元気ブランドの情報等が既に掲載されており、Google Play で配信している。

さらに、宇部商工会議所が行っている「ワンコインパスポート」という企画で得た、宇部市内の多くの店舗情報を提供していただけることとなっており、さらに多くの飲食店のデータを入手することができる。

慶進高校に動画編集ソフト、動画編集用のパソコンがあるため動画、写真さえ入手できれば、動画編集ができる生徒によって作成することが可能だ。アプリの製作は、私たち慶進高校情報処理部が主体となり、場合によって市からサポートを得る。

また、アイデアの中にある、YouTube を活用した CM 作りに関しては、YouTube に掲載許可の下りた店舗の CM を掲載していく。慶進高校情報処理部の生徒が、少しずつ取材に向かうこととなるので時間はかかってしまうが、CM の掲載は遅れても、店舗情報は得ることはできるためアプリ本来の利用は可能である。そのため、CM は長期的に継続して行われることとなる。

このアプリは、データベースを活用する予定でサーバーとアプリをつなぎ、市から頂いたデータをデータベース上で管理し、よりデータの拡張がしやすいようにする。データベースを活用すれば、アプリ自体をアップデートすることなく、データを拡張することができるようになる。

データベースは、私たちがこの宇部グルメを開発した際に使用した、「Monaca」と連携している、「ニフティクラウド mobile backend:mBaaS」を使用する。「Monaca」上でプログラミングすることで、データを自動的に取得できるようになることや、多くの有用な機能をデフォルトで搭載していることなどが、使用する大きなメリットである。

このアプリを開発することで、必要な費用は、追加するデータの容量にもよるが、5GB を上回るようであれば、「ニフティクラウド mobile backend:mBaaS」Basic プランではなく、Expert プランに変えなければならない場合のみだろう。その際は、市とも相談し、どこから資金を調達するかを考える必要がある。月額 5 万円程度であるため、市から提供される可能性も十分あるだろう。必要な人員は情報処理部員が、必要なデータは、市だけでなく、慶進高校情報処理部のほうからも取材に行くことで入手できるため。もうほとんど実現するためのプロセスは完成している。



宇部グルメ

慶進高校 IPC フード&ドリンク

★★★★★ 6 人

3+

⚠ 端末をお持ちでないようです。

🔖 ほしものリストに追加

インストール